

菌床アラゲキクラゲの栽培工程

アラゲキクラゲの菌床栽培の工程は以下のような手順で行います。

菌床の製造工程

① 培地製造

菌床栽培は、培地の土台となる「基材」（主にオガ粉）ときのこに栄養を補う「栄養材」（主に米ぬかや小麦ふすま）を配合したものに水を加え、円柱状やブロック状の耐熱袋に入れて鎮圧して作ります。

② 殺菌（滅菌）

培地を高圧殺菌釜などに入れて殺菌し、常温になるまでしっかり冷まします。

③ 植菌

無菌室でアラゲキクラゲの種菌を培地に植菌します。

④ 培養

植菌後、培養室（室温 23-25℃、湿度 65%程度の暗室）に置き、約 60 日間培養します。



栽培工程

⑤ 発生処理

菌床にカッターなどの刃物でスリットを入れ、栽培棚に並べます。

⑥ 栽培管理

栽培施設はアラゲキクラゲの好む条件（当センター品種の場合、最適温度 25-28℃、湿度 90%以上）に合わせた設定や季節を選んで用意します。散水は 1 日 1 ～3 回程度必要で、菌床が乾燥気味にならないようにします。



⑦ 収穫

きのこが茶碗状から皿状に成長し、最終的に縁が波立つようになってきたら収穫します。

気温が 25℃前後の場合、発生処理から 20 日程度で収穫できます。

きのこの根元（石づき）は培地がついているので、ハサミなどで取り除きます。



⑧ 洗浄

収穫後は異物を取り除くため、水洗いを行ってからよく水をきって出荷します。



アラゲキクラゲの病虫害と対策

【主な症状】

■酸素欠乏・低温障害による症状

栽培時に酸素欠乏や低温障害を受けた場合、ラッパ状の子実体が発生します。



■キノコバエの幼虫による食害

「リュウコツナガマドキノコバエ」と「フタマタナガマドキノコバエ」の幼虫による食害が報告されています。



■「綿腐病」

子実体上に拭っても除去できない綿状のカビが多発します。接触感染をするため、人の手やハサミなどの道具を介して、またアラゲキクラゲへの散水によって下へと感染が広がっていきます。



【基本的な対策】

きのこの施設栽培では、まずは病虫害の侵入を防ぎ、発生、繁殖させないことが大切です。害虫に対しては、栽培施設の内側に防虫ネットを設置します。また、施設内には虫取りシートを吊り下げ、病虫害の温床となりやすい古い菌床や腐ったきのこはすぐに処分しましょう。また、栽培施設の換気を良くすることも大切です。

綿腐病に対しては接触感染をするため、症状が出たものは隔離し、取り除きます。綿腐病の症状が出た菌床を触ったあとに、健全な菌床に触れないように注意を徹底しましょう。

日々の作業の中で、アラゲキクラゲや菌床の状態をよく観察し、病虫害による被害の早期発見と早期対策を行うことが重要です。

※当センターの種菌や菌床ブロックのご購入をご検討の方、詳しい栽培方法について知りたい方は、HP のお問合せフォームよりご連絡ください。

